

委員會ノ意見ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

右手續ハ特別協定又ハ聯盟總會ノ決議ニ依リ定メラルル特別事項ニ關スル規則例ヘハ教科書改訂ニ付採用セラレタルカ如キ規則ノ適用ヲ妨ケス

第二編 陸軍問題

目次

第二編 陸軍問題	二〇一
第一章 總説	二〇一
第二章 各論	二〇一
第一節 「英」條約案提出前ニ於ケル陸軍器材問題經緯	二〇一
第一項 「一般委員會」決議ト陸軍器材問題	二〇一
第二項 重砲戰車問題報告者任命	二〇二
第三項 昭和七年十一月十四日「佛」案ニ表レタル器材問題	二〇三
第一目 「佛」案ノ要旨	二〇三
第二目 「佛」案一般討議	二〇三
第四項 昭和七年十一月十七日「英」外相聲明ニ表レタル器材問題	二〇三
第五項 議事「プログラム」ニ關スル「英」提案中ニ表レタル器材問題	二〇五
第一目 「英」案ノ内容	二〇五
第二目 「幹部會」ニ於ケル討議	二〇五
第三目 「一般委員會」ニ於ケル討議	二〇六

第一、各國態度ノ概観……………	二〇六
第二、器材問題質問集起草委員會設置及其ノ構成……………	二〇六
第三、器材問題集 (Conf. D/C. G./51) ノ内容……………	二〇六
第六項 器材質問集ノ討議……………	二一一
第二節 「英」條約案提出後ニ於ケル器材問題經緯……………	二一一
第一項 概 説……………	二一一
第二項 「英」條約案器材條項ノ審議……………	二一一
第一目 「英」案一般討議ニ表レタル各國ノ態度……………	二一一
一、「土」「智利」「波斯」ノ態度……………	二一一
二、「支」ノ 態 度……………	二一一
三、「佛」ノ 態 度……………	二一一
四、「獨」ノ 態 度……………	二一一
五、「波蘭」ノ 態 度……………	二一一
第二目 「英」案器材條項ノ討議……………	二一二
◎第 十 九 條……………	二二三
△第十九條ニ對スル修正案……………	二二三
一、「英」修 正 案……………	二二三
二、「獨」修 正 案……………	二二三
(一) 修 正 案 々 文……………	二二三

(二) 「獨」修正案ノ措置……………	二二四
三、「土」修 正 案……………	二二四
(一) 修 正 案 々 文……………	二二四
(二) 「土」修正案ノ措置……………	二二四
四、「支」修 正 案……………	二二五
(一) 修 正 案 々 文……………	二二五
(二) 「支」修正案ノ措置……………	二二五
五、「アフガニスタン」修正案……………	二二五
六、「洪」修 正 案……………	二二六
(一) 修 正 案 々 文……………	二二六
(二) 「洪」修正案ノ措置……………	二二六
◎第 二 十 條……………	二二六
◎第二十一條……………	二二六
一、「獨」及「アフガニスタン」修正案……………	二二七
二、「英」修 正 案……………	二二七
三、「土」修 正 案……………	二二七
四、「支」修 正 案……………	二二七
五、「洪」修 正 案……………	二二八
六、第二十一條修正案ニ對スル一般討議……………	二二八

◎第二十二條	二一八
一、「英」修正案	二一八
二、「獨」修正案	二一八
第三目「伊」修正案	二二九
第四目我方修正案	二二〇
第五目「英」案器材條項ノ討議終了ニ當リ「佛」及「波蘭」ノナシタル聲明	二二一

第二編 陸軍問題

第一章 總 說

- 一、本編ニ謂フ陸軍問題トハ陸軍器材制限及縮少問題ヲ指スモノニシテ陸軍人員問題ハ第五編ニ之ヲ掲ケタリ
- 二、「獨」ハ陸軍器材問題ヲ頗ル重視シ「伊」ト共ニ會議カ所謂軍縮事項ノ討議ヲ行フニ際シ終始本問題先議ヲ主張シ人員問題先議ヲ執拗ニ要求セル「佛側」ト抗争セルモ「英」側ハ大體ニ於テ人員先議ニ傾キ會議大勢亦「佛」主張ヲ支持シタリ
- 三、昭和七年九月會議第二期開始後會議ハ「ウルグアイ」代表者ヲ戰車及重砲問題報告者ニ任命セルモ器材問題カ「獨」及其ノ舊與國ノ軍備平等權延イテ安全保障問題ト關係アルカ爲各國間具體的數字ニ付意見ノ一致ヲ見ス遂ニ何等考慮スルニ足ル報告ヲ得スシテ終レリ
- 四、「英」條約案陸軍器材條項ハ移動砲口徑ヲ諸平和條約カ舊敵國ニ課シタル限界又戰車重量ヲ十六噸ニ又制限超過器材ノ破棄等相當「ラヂカル」ナル規定ヲ有セルモ本條項ハ前記三所載ノ如キ機微ナル事情ヲ包含スルモノナルカ故ニ會議第二期ニ於テハ同條項ノ第一讀會ヲ終ヘタルノミニテ何等決定ヲ行ハサルノミナラス「佛」ノ如キハ器材問題ノ解決ハ陸軍編成様式統一及安全保障問題ノ解決如何ニヨルトノ同國從來ノ態度ヲ敷衍スル處アリタリ
- 五、我方ハ我方獨自ノ立場ヨリ前記「英」案器材條項ニ關シ修正案ヲ提出スル處アリタリ

第二章 各 論

第一節 「英」條約案提出前ニ於ケル陸軍器材問題經緯

第一項 「一般委員會」決議ト陸軍器材問題

昭和七年七月二十三日「一般委員會」決議ハ其ノIIノ2陸軍兵力ノ項ニ於テ

(a) 陸 軍 砲

1. 其ノ口徑カ2ニ掲クル最大口徑ト今後定ムヘキ右口徑ヨリ小ナル數字トノ間ニアル一切ノ陸軍重砲ノ數ハ之ヲ制限ス

2. 軍縮新條約ハ陸軍砲ノ最大口徑ヲ制限ス

固定砲ノ迅速ナル移動砲ヘノ變更防止ノ爲ニスル有效ナル方法ノ定メラルルコトヲ條件トシ左ノ如ク最大口徑ヲ定ム

- (a) 海軍砲最大口徑ヨリ低カラサル海岸砲ノ最大口徑
- (b) 國境又ハ要塞防禦部隊用砲ノ最大口徑
- (c) 移動砲最大口徑(但シ海岸防禦用砲ヲ除ク)

(b) 戰 車

戰車最大重量ハ之ヲ制限ス

ト掲ケ各種陸軍砲ノ最大口徑及戰車最大ノ自重制限ノ原則ヲ定メタルカ故ニ昭和七年九月休會明ケ後ノ會議第二期ハ之ヲ補足スルニ具體的數字ヲ以テスヘキ段取トナリ居リシカ故ニ「ウルグアイ」代表ヲ重砲及戰車問題ニ關スル報告者ニ任命シタルモ遂ニ右具體的數字ヲ得ルニ至ラスシテ「英」條約案ノ提出ニ至リタリ

第二項 重砲戰車問題報告者任命

一、會議第二期開始後「幹部會」ハ一般報告者「ベネシ」ノ作成セル案(Conf. D./Bureau)ヲ基礎トシテ昭和七年七月二十三日「一般委員會」決議實施ノ爲ニスル議事方法ヲ討議シ重砲及戰車問題ニ關シテハ幹部會ハ昭和七年九月二十二日議長ノ提議ニヨリ會議第一期陸軍委員會議長「ブエロ」(ウルグアイ)ヲ報告者ニ任命シ各代表部ト私的會談ヲ行ヒ具

體的數字ヲ含ム討議基礎作成方ヲ委囑シタリ

二、重砲戰車問題等ト殆ト同時ニ報告作成方ヲ「幹部會」ヨリ命セラレタル監督及化學戰問題等ニ付テハ夫々報告ノ提出アリタルモ本件報告ハ前出第一章三所載ノ如キ困難ニ遭遇セル爲昭和七年十一月十五日報告者「ウルグアイ」代表ハ「幹部會」ノ命ニ從ヒ各代表部ト接觸ノ上數字ヲ含ム具體案ヲ有スルヤ否ヤ確メタル處右私的會談ノ現狀ニ照セハ此ノ際寧ロ報告提出方ヲ差控フル方今後ノ議事進捗上却テ有利ナリト認ムル旨了解ヲ求メ「幹部會」之ヲ承認シタリ

第三項 昭和七年十一月十四日「佛」案ニ表レタル器材問題

第一目 「佛」案ノ要旨

一、「佛」ハ昭和七年十一月四日「幹部會」ニ於テ所謂建設的提案ノ大綱ヲ披露シ次テ十一月十四日附ヲ以テ會議書類 Conf. D./146 トシテ同案ヲ配付セリ

二、「佛」案ハ歐洲大陸諸國陸軍編成様式統一ヲ其ノ軍縮條項ノ主眼トナシ居ル爲器材關係事項ハ右様式統一問題ト附隨シ又ハ獨立ニ取扱ハルル場合ニ於テモ寧ロ簡單ニ記述セラレ居ルニ過キサル處其ノ趣旨ハ一定性能ヲ超ユル陸軍器材ハ被侵略國救援共同動作ノ爲ニスル特殊訓練部隊用ノモノ以外ハ之ヲ國際化シ統一スヘキモノトナスニアリタリ

第二目 「佛」案一般討議

「佛」案一般討議ハ昭和八年二月二日、三日、六日、七日及八日ニ互リ「獨」ノ會議復歸ノ下ニ行ハレタル處同案器材事項ニ關シ「獨」「蘭」ハ「佛」案カ侵略的器材ヲ破棄スルコトナク貯藏スルコトナシ居ルハ質的軍縮ヲ空文ニ歸セントスルモノナルカ故ニ此ノ種器材ハ須ク一定期間内ニ破棄スルト共ニ其ノ製造ヲ絕對ニ禁止スヘシト云ヒ「白」ハ特ニ攻撃的ナル兵器ヲ國際化スルヲ以テ足レリトセス各國政府ヨリ事實上其ノ使用ヲ不可能ナラシムヘシトセリ

第四項 昭和七年十一月十七日「英」外相聲明ニ表レタル器材問題

「英」外相ハ「獨」ノ會議復歸ヲ促進スルコトヲ主眼トセル一ノ會議々事案ヲ作成シ昭和七年十一月十七日特ニ幹部會ノ開

催ヲ求メ之ヲ披露シタルカ右聲明中器材ニ關スル部分左ノ如シ

陸軍々備

(a) 戰車

世界大戰中使用セラレタル大戰車ハ疑ヒモナク攻撃的兵器タリキ換言スレハ其ノ主タル目的ハ周密ニ準備セラレタル防禦地點ヲ破壊及踰越スルニアリキ

「英」ハ特ニ攻撃的ナル一切ノ兵器ヲ禁止セムトスル「フリーヴァー」提案ニ賛同ス然レトモ前記戰車ニ比較シ輕キ最近ノ戰車ハ全ク之ト異ル任務ヲ有スルコトヲ認メサルヘカラス右ノ如キ戰車ノ裝甲ハ比較的薄ク且其ノ比較的小ナル塹壕踰越力ハ堅固ナル防禦陣地攻撃ニ不適當ナラシム此ノ種戰車ハ「英」ノ如ク小數ノ傭兵ヨリナル軍隊ニトリテハ機關銃及自動銃ノ銃火ニ對シ人員ノ小ナルコトヲ補フカ爲又人命保護ノ爲放棄シ得サル手段タリ因テ戰車ノ一般の廢止ヲ行フニ於テハ「英」ハ其ノ有スル世界の責任ニ鑑ミ軍縮ノ本旨ニ反シ自國人員ヲ増加スルノ餘儀ナキニ至ルヘシ故ニ「英」ハ少クトモ第一階梯トシテ一定重量ヲ超ユル一切ノ戰車ヲ廢止シ右重量ヲ戰闘ニ際シ攻撃的用途ニ特ニ適スル如キ使用ヲ不可能ナラシムル様決定セムコトヲ提議ス他方軍備平等權ヲ認ムルトセハ主義上「獨」ニ對シテモ一定數ノ戰車保持ヲ拒ムヲ得サルヘケレト右實現スヘキカ又其ノ實現ノ場合ニ於テ其ノ數ヲ幾何トスルカハ各國々軍ノ用途如何ニヨリ定マルモノトス何レニセヨ本點ハ「獨」ノ復歸(註)ヲ俟テ壽府ニ於ケル會議ニヨリ決セラルヘキモノナリ

(註)「獨」ハ昭和七年十二月十四日ノ「一般委員會」ヨリ會議ニ復歸セリ

(b) 陸上大口径移動砲

「ゲルサイユ」條約ニヨレハ「獨」ノ所有シ得ル移動砲最大口径ハ百〇五耗ニシテ右數字カ右砲ヲ以テ防禦的用途ニ適當ナルモノヲ示スコト明ナリ右型ノ實例ニ付各國ノ間ニ存スル差僅少ニ過キスシテ「英」ノ四、五吋ハ口径百〇五耗

ヲ超ユルコト僅ナリ軍縮ノ一大進歩ヲ計リツ、本兵器ニ關シ「獨」ニ平等權ヲ與フルカ爲ノ明白ナル方法ハ各國ノ砲ヲ一率ニ右口径ニ統一スルコトニアリ陸軍移動砲ニ關スル會議討議ハ從來百五十五耗ノ數字ノ周圍ヲ往來セシカ若シ國際條約ニヨリ將來ニ關シ最大口径ヲ約百〇五耗ト定ムルニ於テハ一切ノ新陳交換砲及新砲ハ百〇五耗ヲ超エシメサルコト、ナルヘシ(註)

(註) 英條約案第二編第二款第一章ハ本(b)ヲ基礎トセリ

第五項 議事「プログラム」ニ關スル「英」提案中ニ表レタル器材問題

第一目 「英」案ノ内容

「英」代表部ハ昭和八年一月末前記第四項「英」外相聲明ヲ基礎トセル議事「プログラム」ニ關スル提案(Conf. D. 154)ヲ提出シ「幹部會」ハ同二月九日及十日ニ互リ同案ヲ討議セル處其ノ陸軍器材關係事項左ノ如シ

「幹部會」ハ

- (1) 戰車最大自重
- (2) 將來ニ於ケル陸軍移動砲最大口径
- (3) 許容噸數ヲ有スル戰車及許容口径ヲ有スル陸軍移動砲ノ數ヲ制限スヘキヤ否ヤノ問題
- (4) 戰車ノ數的制限ヲ行フ場合ニ於テ右制限ヲ超ユル戰車ノ處分ヲ決スヘシ

第二目 「幹部會」ニ於ケル討議

「英」案ハ軍縮事項トシテ人員、器材、空軍、海軍ノ四事項ヲ上記順序ニテ配列記載シ居ル處「獨」「伊」ハ右カ會議ニヨリ行ハルル討議順序ヲモ示スモノナルニ於テ之ヲ變更シ陸軍器材ヲ先議スヘシト固執シ「伊」ノ如キハ「幹部會」ノ大勢「佛」主張ニ從ヒ人員問題先議ニ傾キヤ之ニ留保セル程ナリシモ「幹部會」ハ結局前記「英」案ノ順序ノ儘ニテ器材事項ヲ「一般委員會」ニ廻付シタリ

第一、各國態度ノ概観

第三目 「一般委員會」ニ於ケル討議

「一般委員會」ハ昭和八年二月十三日前記「英」案ヲ討議シタルカ依然前出ノ如キ「獨」「伊」及「佛」ノ對立ヲ見タルモ「佛」説勝チヲ制シ人員問題質問集起草委員會設置セラレ器材問題ハ後廻シトナレルカ其ノ後三月九日「一般委員會」ハ器材問題ニ關スル各國ノ一般の態度ヲ聴取セル處「獨」ハ器材問題ニ付テモ質問集作成ノ爲起草委員會ヲ設クヘク又特ニ攻撃のナル器材ヲ破壊スルト共ニ「英」ノ「プログラム」案ノ言及シ居ラサル固定砲ヲモ併セ考慮ニ容ルヘシトシ「伊」ハ口徑百耗ヲ超ユル重砲戰車及裝甲自動車ヲ破棄スル用意アリト述ヘ且「獨」ノ起草委員會設置説ヲ支持シタルモ「佛」ハ自國カ陸軍編成様式統一及相互援助組織ヲ重視シ居ルニ拘ラス右ノ如キ組織運用ノ爲其ノ參加絶對ニ必要ナル數國^(註)ハ之ニ參加方ヲ拒否シタルカ故ニ右ノ如キ會議ノ現狀ニ於テ「佛」ハ器材ノ口徑重量又ハ縮少ノ限界ニ付意見ヲ表明シ得ストシ小協商諸國「佛」ヲ支持シタリ

(註)「獨」「伊」ハ右討議ノ直前「政治委員會」ニ於テ相互援助ニ對シ主義上ノ反對ヲ表明シタリ

第二、器材問題質問集起草委員會設置及其ノ構成

昭和八年三月九日「一般委員會」ハ一定器材ノ破壊又ハ制限ノ原則ト關聯シ一ノ質問集作成ノ爲左ノ諸國ヨリ成ル起草委員會ヲ構成シタリ

「日」「英」「米」「佛」「伊」「獨」「蘇」「蘭」「波蘭」「西」「土」「ウルグアイ」

第三、器材問題集 (Conf. D./C. G./51) ノ内容

前記起草委員會ノ作成セル器材質問集左ノ如シ

一、質的制限

一、「一般委員會」ハ左ノ兵器ヲ全廢スヘシト認ムルヤ

(イ) 戰 車

(ロ) 一切ノ種類ノ裝甲自動車

(ハ) 裝 甲 列 車

(ニ) 移動裝甲塔

二、若シ然ラストセハ「一般委員會」ハ戰車及裝甲自動車ニ付單車最大重量ヲ定ムヘキモノト認ムルヤ
右重量如何(裝甲列車及移動裝甲塔ノ備砲最大口徑如何)

三、戰車ノ質的制限及裝甲自動車ニ付重量以外ニ他ノ性能ヲ考慮スル要アリヤ

四、平和の使途ニ充テラル、發動機裝甲車輛ハ其ノ戰車トシテノ使用ヲ可能ナラシムルニ適スル性能ヲ有スヘカラスト
ノ規定ヲ設クルノ必要アリヤ

五、「一般委員會」ハ一定口徑以上ノ重砲ヲ全廢スヘキモノト認ムルヤ

六、若シ然リトセハ左ノ砲ノ最大口徑如何

(a) 陸 上 移 動 砲

(b) 陸 上 固 定 砲

(c) 海 岸 移 動 砲

(d) 海 岸 固 定 砲

七、陸軍重砲ノ各種ニ付異ル口徑ヲ定ムルコト不可能ナリトセハ一切ノ砲ニ付劃一的制限ヲ定ムヘキヤ右制限如何

八、陸軍重砲ノ質的制限ニ關シ口徑以外ニ他ノ性能ヲ考慮スルノ要アリヤ

九、戰時質的制限ニ關スル規定ノ適用ヲ停止スヘキヤ

十、前記諸問ニ對スル回答ニ基ク質的制限ハ兵器ノ製造及取引ニ關シ影響ヲ及ホスヘキモノナリヤ特ニ右制限ハ左ノ器

材ニ適用セラルヘキモノナリヤ

- (a) 國家ニヨリ若クハ國家ノ爲ニ製造セラレ又ハ國家ニヨリ保有セラル、器材
- (b) 當該國法域内ニ於テ民間會社ニヨリ製造又ハ保有セラルル器材

二、量的制限

一、許容質的制限ヲ超過セサル左ノ兵器ノ一部又ハ全部ヲ制限スヘキヤ

- (a) 戰車
- (b) 裝甲自動車
- (c) 裝甲列車
- (d) 移動裝甲塔

二、右制限ニ關シ一ノニニ掲クル質的性能ノ外性能ヲ考慮スルノ要アリヤ

三、然リトセハ(一ニ對スル回答トシテ)「一般委員會」ハ各國ニ對スル許容量ヲ定ムルカ爲各種標準ヲ考慮スルノ要アリヤ

四、總噸數ニヨリ戰車及裝甲自動車ノ制限ヲ行フノ要アリヤ

五、「一般委員會」ハ許容口徑ヲ有スル左ノ砲ノ數の制限ニ關シ各國ニ對スル許容量ヲ定ムルカ爲各種標準ヲ考慮スルノ要アリヤ

- (a) 陸上移動砲
- (b) 陸上固定砲
- (c) 海岸移動砲
- (d) 海岸固定砲

六、一定口徑以下ノ砲ノ數ハ之ヲ制限セサルヲ可トスヘキヤ

七、右制限ニ關シ口徑以外ニ他ノ性能ヲ考慮スルノ要アリヤ

八、「一般委員會」ハ

量的制限ハ原則トシテ現用器材ノミナラス等シク貯藏器材ニモ及フヘキモノト認ムルヤ

若シ然リトセハ貯藏器材ニ對スル量的制限ノ適用ハ武器及軍用器材ノ民營及官營ノ問題ト關係ナク研究セラル、ヲ得

ト認ムルヤ

九、前記諸問ニ對スル回答ニ基ク量的制限ハ兵器ノ製造及取引ニ關シ影響ヲ及ホスヘキモノナリヤ特ニ右制限ハ左ノ器材ニ適用セラルヘキモノナリヤ

- (a) 國家ニヨリ若クハ國家ノ爲ニ製造セラレ又ハ國家ニヨリ保有セラル、器材
- (b) 當該國法域内ニ於テ民間會社ニヨリ製造又ハ保有セラル、器材

三、各國々軍ノ使用ヲ禁止セラル、器材ノ處置

一、左ノモノニ對スル處置(破棄、國際化又ハ轉用)

- (a) 許容限界超過戰車
- (b) 許容數ヲ超過セル許容戰車
- (c) 許容限界超過移動砲
- (d) 許容數ヲ超過セル許容移動砲
- (e) 許容限界超過固定砲
- (f) 許容數ヲ超過セル許容固定砲
- (g) 禁止砲ノ軍需品

二、右器材ヲ破棄スル場合其ノ破棄又ハ轉用ニ關シ期限及特別手續ヲ規定スルノ要アリヤ

四、陸軍器材ニ關スル各種問題

一、左ノ器材ニ關シ公表制度ヲ規定スルノ要アリヤ

(a) 量の制限ヲ受クル各國々軍陸軍器材

(b) 國際化セラレ得ヘキ陸軍器材

(c) 量の制限ヲ受ケス又國際化セラレサル陸軍器材

其ノ必要アラハ右ノ如キ器材如何

二、監督ノ一般の規格内ニ於テ陸軍器材ニ關シ特殊方法ヲ規定スルノ要アリヤ

三、「一般委員會」ハ歐洲大陸諸國ニ特有ニシテ右諸國間ニ防止の軍備平等權實現ノ爲ニスル器材ノ量の及質の縮少制度ノ研究ヲナスノ要アリト認ムルヤ

四、「一般委員會」ハ右特別制度ハ特ニ左ヲ包含スヘキモノト認ムルヤ

(a) 編成様式ノ統一セラレタル國軍ニ對スル強力ナル移動器材ノ禁止

(b) 一般軍縮條約ノ規定スヘキ他ノ質の縮少措置及強力ナル器材ヲ有スル共同動作ノ爲ニスル特殊訓練部隊ノ構成ヲ留保シ且適當ニシテ出來得ル限り實效のナル國際監督ノ下ニ於ケル右ノ如キ禁止器材ノ「政治委員會」ノ定ムヘキ條件ニヨリ正當防衛ヲ行フ又ハ共同動作ニヨリ利益ヲ享クヘキ國ノ使用ノ爲ニスル貯藏

(c) 國際監督ニヨル陸軍器材ノ漸進的統一及武器製造ノ國際的組織

(d) 少クとも一年一回ノ調査ヲ伴フ定期且常設の國際監督

(附記) 起草委員會ハ専門家ノ意見ヲ徵シタル後左ノ諸問ニ關シテハ何等ノ決定ヲナササリキ

(a) 本質問集ニ掲ケラレタル以外ノ器材ノ量の制限

(b) 右ノ如キ器材ノ質の制限

(c) 右ノ如キ器材ニ適用セラルヘキ特殊監督

(註) 「獨」ハ起草委員會ノ權限ハ陸軍器材其ノモノニ限定セラルヘキモノニシテ從テ例ヘハ前記四ノ三及四ノ如キ政治問題及公表監督製造及取引等ハ其ノ權限外タリト留保ヲ付シタリ

第六項 器材問集ノ討議

右器材問集ハ昭和八年三月十六日ノ「一般委員會」ニ附議セラルルノ豫定ナリシモ此ノ日英首相ヨリ「英」條約案 (Conf. D. 157) 披露演說ヲ行ヒタシトノ希望ニヨリ議事ヲ之ニ充テタル爲器材問題ノ審議ハ自然立消エトナリ爾後器材問題ノ討議ハ右「英」條約案ヲ通シテ行ハルルニ止マリタリ

第二節 「英」條約案提出後ニ於ケル器材問題經緯

第一項 概 說

一、右經過ニヨリテ大體明カナルカ如ク「獨」「伊」ノ主張ニ拘ラス器材問題ハ常ニ先議ノ機會ヲ逸シ「佛」主張ヲ多分ニ採リ入レタル人員問集 (Conf. D./G. (41) カ) 「一般委員會」ニ於テ先ツ審議セラレ次テ「人員特別委員會」ニ附議セラレタルト對比シ器材問集ハ單ニ起草ヲ終リタルノミニテ其ノ儘會議ハ「英」條約案ノ討議ニ移レル次第ナリ

二、「英」條約案ノ審議開始後安全保障ニ關スル第一編ノ討議ハ「米」ノ要求ニヨリ一時中止シ第二編第一款人員問題ニ移リ更ニ陸軍器材ニ及ハムトスルヤ「佛」ハ昭和八年五月十六日「米」大統領敎書發表及同五月二十二日「ノーマン、デーヴィス」ノ聲明等ニ藉口シ今ヤ安全保障等ニ對スル「米」ノ態度モ明カトナリタレハ「米」ノ求メニヨリ中絶セル第一編ノ討議ニ復歸方ヲ要求セル處「獨」ハ頑強ニ之ニ反對セルカ故ニ器材及安全保障問題條項ノ第一讀會討議ヲ交互ニ行フコトトシテ一應覺ヲ着ケタリ

第二項 「英」條約案器材條項ノ審議

第一目 「英」案一般討議ニ表レタル各國ノ態度

「一般委員會」ハ昭和八年三月二十四日、二十五日、二十七日ニ互リ「英」條約案ノ一般討議ヲ行ヒタル處右ニ際シ器材問題ニ關シ各國ノ表明セル意見概要左ノ如シ

一、「土」「智利」「波斯」ノ態度

戰車ハ十六噸ニ限ラス全廢スヘシ

二、「支」ノ態度

戰車ハ宜シク之ヲ全廢スヘク全廢不可能ナルニ於テハ「英」案提示ノ十六噸ヨリ著シク低キ數字ヲ限界トスヘシ

三、「佛」ノ態度

軍縮實現ノ速度ハ極メテ重大問題ナル處「一般委員會」ハ既ニ之ヲ以テ漸進的階梯的實現ヲ以テ可トナスニ合意ヲ見タリト認メラル而シテ右ニ關シ器材ノ制限ハ之ヲ密接ニ歐洲諸國陸軍編成様式統一及安全保障問題ト關聯セシムヘキモノナリ

四、「獨」ノ態度

平和條約ノ禁止セル器材ハ一切ノ國ニ對シ其ノ保持ヲ禁止シタル上速カニ之ヲ破棄スヘク然ラスンハ右ニ關シ一切ノ國ニ對シ平等待遇ヲ與フヘシ

五、「波蘭」ノ態度

「英」條約案器材條項ノ簡明ナルハ大ニ可ナルモ修正ノ要アリ右ニ關シテハ器材質問集 (Conf. D./C. G./51) ヲ参照スルハ一方法タルヘシ

第二目 「英」器材條項ノ討議

「獨」「伊」カ久シキニ互リ討議開催方ヲ主張シ居リタル器材問題第一讀會ハ昭和八年五月二十三日「一般委員會」ニ於テ討議セラレタル處「獨」ノ態度比較的穩健ナリシニ對シ「佛」ハ器材問題審議ノ前途ヲ危マシムルカ如キ後記第五目所載

ノ聲明ヲナシタリ

◎第十九條

「今後陸軍移動砲最大口径ヲ 百五耗トス 百五十五耗ニ至ル現存ノ陸軍移動砲ハ之ヲ保有スルヲ得但シ一切ノ新陳交換又ハ新造ハ百五耗ヲ超ユルヲ得ス

本款ノ適用ニ付テハ口径四、五吋（一一四、五耗）ノ砲ハ右口径ヲ有スルモノヲ基準砲トスル國ニ付百五耗砲ニ相當スルモノト認ム

海岸砲最大口径ハ之ヲ四百六耗トス」

△第十九條ニ對スル修正案

一、「英」修正案

「英」原案第二項ハ「英」カ自國ノ砲ヲ「吋」ニテ計算シ「吋」ニヨリ計算セサル國ニ比シ有利ナル地位ヲ保持セムトスルカ如キ觀ヲ呈スルカ故ニ第二項ヲ削除シ第一項ヲ左ノ如ク修正センコトヲ提議シ右ニ決セリ尙第三項ハ原案ノ儘トス

「移動砲最大口径ハ今後百十五耗（數學的ニ精確ニ四、五吋ニ相當ス）ト口径百五十五耗ヲ超ユサル現存移動砲ハ之ヲ保有スルヲ得但シ一切ノ新陳交換又ハ新造砲ハ最大口径百十五耗ヲ超ユルヲ得ス」

二、「獨」修正案 (Conf. D./C. G./79)

(一) 修正案々文

「第十九條ヲ左ノ如ク修正ス

砲ノ最大口径ヲ左ノ如ク定ム

(イ) 一切ノ種類ノ移動砲ハ百五耗

- (ロ) 固定砲ハ二百十耗
(ハ) 海岸固定砲ハ四百六耗

(二) 「獨」修正案ノ措置

「獨」ハ右ニ關シ重機材ノ破壊ハ軍縮ノ爲大ニ可ナリト信スルモノナルカ故ニ一般的受諾ヲ受クルニ足ル提案ニシテ「英」案ヨリ更ニ進歩セル提案アラハ常ニ之ヲ支持スヘシ

但シ差當リノ措置トシテハ「獨」ハ第十九條乃至第二十一條カ根本的修正又ハ追加ヲ受ケサルコトヲ條件トシテ之ヲ受諾スルノ用意ヲ有シ從テ「獨」修正案カ此ノ際直ニ討議セラルルコトヲ主張セサルヘシ尤モ「獨」ハ禁止器材カ餘リ長カラサル期間内ニ破棄セラルルコトヲ肝要ナリトスルモノナルカ故ニ右ニ關スル第二十二條ニ對シテハ修正案ヲ提出スルコトアルヘキモ禁止兵器破棄問題ノ詳細ヲ討議スルニ先チ會議ハ「英」案中ノ最大口徑及最大自重ヲ採用スルヤ將又更ニ之ニ一步ヲ進メトスルヤニ付意見ヲ定ムルノ要アリ「獨」ハ「英」案第二編特ニ器材ニ關スル條章ハ不可分ノ一體ヲナスモノト認メ居レリト述ヘ第十九條乃至第二十二條ニ關スル自國修正案ヲ撤回シ唯第二十二條ニ對シテハ別ニ新ナル修正案ヲ提出スル權利ヲ留保シタリ

三、「土」修正案 (Conf. D/C. G./74)

(一) 修正案々々

- (イ) 第十九條第一項ノ後ニ左ノ一項ヲ加フ

「英」條約案々々文ノ會議提出前ニ注文ヲ發セラレタル砲ノミ現存ノモノト見做ス

- (ロ) 同條第二項中左ノ語ヲ削除ス

「右口徑ヲ有スルモノヲ基準砲トスル國ニ付」

(二) 「土」修正案ノ措置

「土」ハ前記一ノ「英」修正案ノ結果第十九條第二項ニ對スル「土」修正案ハ不必要トナレリ又第十九條カ右「土」修正案(イ)ノ如ク解釋セラルルニ於テハ同條ヲ受諾スルノ用意アリト述ヘ「英」ハ之ニ對シ「土」修正案(イ)ニ付テハ「一般委員會」ハ大體異議ナカルヘキモ慎重研究ノ上合意ナラハ第二讀會ニ於テ之ヲ第十九條ニ挿入スルコトトナスヘシト述ヘ右ニ決ス

四、「支」修正案 (Conf. D/C. G./84)

(一) 修正案々々

「移動砲及海岸砲ハ其ノ口徑ト共ニ數ヲモ制限スルヲ要スヘク從テ第十三條所屬ノ表ト類似ノ表ノ作成ヲ必要トスヘシ」

(二) 「支」修正案ノ措置

「支」ハ「英」案ハ量の制限ヲ規定シ居ラサル處砲數ヲ制限セサルニ於テハ質的制限ノ結果多數ノ砲ノ製造ヲ誘發スルコトナルヘク「支」修正案ハ之ヲ少クトモ第二讀會ニ於テ慎重討議セラレタシト希望シ「蘭」ハ第十九條第三項ノ規定ハ長キ海岸線ヲ有スル國ヲシテ無數ノ海岸砲ヲ有シ必要ニ應ジ之ヲ他ノ用途ニ充ツルヲ得シムルモノナルカ故ニ「英」案現存ノ儘ニ於テハ制限ノ結果ハ始ト皆無ナルヘク他方量の制限ヲ行ハスンハ補強設備ヲ施シタル商船ニ搭載スルカ爲ノ海軍貯藏砲ノ存在ヲモ誘致スヘシト指摘シタル處「英」ハ「英」案ハ制限ニ止マラス一定器材ノ破棄ヲ規定シ居ルモノナルカ故ニ七月二十三日「一般委員會」決議ニ比シ遙ニ進歩セルモノナリトシ結局本點ニ關シ「英」

五、「アフガニスタン」修正案 (Conf. D/C. G./88)

「移動砲口徑ノ限界ハ之ヲ百五耗トス」

(註) 本修正案ノ討議ハ第二讀會ニ延期セラレタリ

六、「洪」修正案 (Conf. D/C. G./81)

(一)「修正案」文第十九條ヲ左ノ如ク修正ス

(イ) 移動砲ノ最大限ハ之ヲ百五十耗トス

(ロ) 又海岸砲ノ問題ハ軍艦ノ備砲要塞砲ノ問題等ト密接ナル關係アルカ故ニ移動砲ト分離シ別條ニ於テ取扱フヲ適當トスヘシ

(二)「洪」修正案ノ措置

「洪」ハ一所載第十九條ニ對スル「英」修正案ノ結果「洪」修正案 (イ) 中ノ百五十耗ナル語ハ百十五耗トナスヘク又百十五耗ヲ超ユル移動砲ハ出來得ル限り速カニ破棄スヘシ若シ「一般委員會」ノ多數カ之ヲ否トスル時ハ五ヶ年間に以ニ之ヲ破棄スヘシトノ意向ヲ有ス何レニセヨ「洪」ハ第二十二條ニ關スル決定ナキ限り第十九條ニ對スル終局の意見ヲ述ヘ得ストセリ

◎第二十條

本條約解釋ノ爲戰車ヲ左ノ如ク定義ス

「戰車トハ完全ニ裝甲武裝セラレタル自動車輻ニシテ一般ニ無限軌道ニ依リ各種ノ地形ニ於テ行動シ及戰爭ニ於ケル諸般ノ障害物ヲ超越スル如ク設計セラレタルモノナリ」

何等修正案ノ提出ナカリシヲ以テ假リニ採擇ス

◎第二十一條

「戰車ノ最大重量ヲ十六噸トス

(附記) 陸軍器材ノ一重要方面ハ茲ニ充分ニ解決セラレ居ラス十六噸以下ノ戰車ニ關シテハ何等提案ヲ爲スコトナシ客年十一月十七日英國政府ハ重戰車及輕戰車ノ異レル特性ニ付注意ヲ喚起スル所アリシカ後者ニ關シテハ今後更ニ各國

間ノ審議ヲ要スル次第ニシテ右審議ノ結果該重要近代兵器ニ付テ協定ニ達スルヲ得ヘシ」

△第二十一條ニ對スル修正案

一、「獨」及「アフガニスタン」修正案 (Conf. D/C. G./79 及 88)

「第二十一條削除」

(註)「獨」ハ自國修正案ヲ撤回セルモ「アフガニスタン」ハ第二議會迄自國案ヲ維持シタリ

二、「英」修正案 (Conf. D. G./72)

「英」ハ自國條約案第五十一條 (附記) 記載ノ通り同條々文ハ末タ不完全ナルモノナルカ故ニ慎重考慮ノ結果同條ヲ補足スルニ量の制限ヲ以テシ之カ爲第一及第二議會ノ間ニ戰車表ヲ作ルコトトシ他方右基礎トナルヘキ第二十一條案文ヲ新ニ左ノ如ク修正シ度シト述ヘタリ

「戰車ノ最大重量ヲ十六噸トス

自重ノ定義ハ附屬第一ニ掲ケタル處ニヨル

各締約國ノ有スル戰車ノ數ハ右締約國ニ付本章附屬表ニ掲ケラレタル數字ヲ超ユルコトヲ得ス」

(註)「自重」ノ定義ハ第二十二條ニ對スル説明ヲ參照

三、「土」修正案 (Conf. D/C. G./74)

第二十一條ヲ左ノ如ク修正ス

「戰車ハ之ヲ全廢ス」

四、「支」修正案 (Conf. D/C. G./84)

第二十一條ヲ左ノ如ク修正ス

「締約國ハ自國ノ有スル一切ノ戰車ヲ破棄シ及今後之ヲ新ニ建造セサルコトヲ約ス」

五、「洪」修正案 (Conf. D/C. G./81)

第二十一條ヲ左ノ如ク修正ス

「一切ノ戰車ハ之ヲ廢棄ス」

六、第二十一條修正案ニ對スル一般討議

「洪」ハ昭和七年會議第一期陸軍委員會參加國中實ニ二十三國ノ多數ハ戰車全廢ヲ主張シタル處「洪」修正案ハ其ノ表現ニ過キスト述ヘ「支」ハ戰車ハ其ノ自重ノ如何ヲ問ハス悉ク特ニ進攻的ナル兵器ニシテ殊ニ本兵器ハ最近支那ニ於テ重大ナル役割ヲ演シタリト述ヘタルカ是等修正案ハ總テ之ヲ第二讀會ニ持テ越スコトシタリ

◎第二十二條

「百五十五耗ヲ超ユル一切ノ移動砲及十六噸ヲ超ユル一切ノ戰車ハ左ノ段階ニ依リ破棄セラルヘシ

本條約實施後十二ヶ月以内ニ三分ノ一

本條約實施後三ヶ年以内ニ三分ノ二

百五耗ヲ超ユル一切ノ砲ハ百五耗又ハ百五耗ヲ超エサル新ナル砲ニ依リ新陳交換セラレタルトキハ速ニ之ヲ破棄スヘシ」

一、「英」修正案 (Conf. D/C. G./72)

「第二十二條ノ直後ニ第一附屬書トシテ新ニ左ヲ加フ

「戰車自重ノ定義

戰車ノ自重トハ無限軌道、發動機及電動裝置ヲ含ム車體ノ重量ニシテ備砲、砲架、乘員、燃料、燃油、冷却用水、軍需品、無線裝置及他ノ軍事設備ヲ除外セルモノヲ云フ」

(註)「獨」ハ之ト同文ノ修正案 (Conf. D/C. G./73) ナ提出シ居リシカ撤回シ左ノ如ク述ヘタリ

二、「獨」修正案

「英」案第二十二條ハ特定期限内ニ口徑百五十五耗ヲ超ユル移動砲及十六噸ヲ超ユル戰車ノ破棄ヲ規定シ居ルモ百十五耗ヲ超ユル移動砲ハ百十五耗又其レ以下ノ新砲ニヨリテ新陳交換セララル場合ニ於テ初メテ破棄セラルヘキモノトシ而モ期限ヲ定ムルコトナシ因テ「獨」ハ右期限ヲ明定スルニ五ヶ年トスルヲ可ト信スルカ故ニ第二十二條ノ終リニ「然シテ遅クトモ本條約實施後五年以内ニ」ノ語ノ附加方ヲ提議ス

他方本條禁止兵器ノ使用ヲ將來ニ嚴禁スルノ要アルニ鑑ミ第二十二條ニ新ニ

「本條第一項及第二項ノ終リニ定メラレタル期限ノ終了後右ニ掲ケラルル種類ノ兵器ノ使用ハ絶對ニ禁止セラルヘシ」ナル一項ヲ加ヘンコトヲ提議ス (Conf. D/C. G./106) ト述ヘタリ

三、「洪」修正案 (Conf. D/C. G./118)

「現用又ハ貯藏中ノ口徑百十五耗ヲ超ユル一切ノ移動砲及現用又ハ貯藏中ノ一切ノ戰車ハ左ノ段階ニヨリ破棄セラルヘシ」

- (1) 口徑百五十五耗ヲ超ユル一切ノ移動砲及一切ノ戰車ハ本條約實施後十二ヶ月以内
- (2) 口徑百十五耗ヲ超ユルモ百五十五耗ヲ超エサル一切ノ移動砲ハ本條約實施後五年間ニ五分分シ之ヲ破棄ス」

(註)「洪」ハ昭和八年五月二十三日「一般委員會」ニ於テ右修正案ヲ撤回シ前記「獨」修正案ヲ支持スル旨ヲ述ヘタリ

第三目 「伊」修正案

「伊」ハ「英」條約案器材條項第一讀會終了後昭和八年六月十二日附 Conf. D/C. G./140 ヲ以テ同條項ニ對シ左ノ修正案ヲ提出シタリ

◎第十九條

第十九條ヲ左ノ如ク修正ス

「陸軍砲最大限ヲ左ノ如ク定ム

- (イ) 一切ノ種類ノ移動砲ニ關シテハ百五耗
 (ロ) 固定砲ニ關シテハ二百十耗
 (ハ) 海岸固定砲ニ關シテハ四百六耗

◎第二十一條

十六噸ヲ六噸ト修正ス

◎第二十二條

第二十二條ヲ左ノ如ク修正ス

「一切ノ陸軍砲(貯藏器材ヲ含ム)ニシテ左ノ口徑ヲ超ユルモノ

移動砲ニ付テハ百五耗

固定砲ニ付テハ二百十耗

海岸固定砲ニ付テハ四百六耗

及自重六噸ヲ超ユル戰車ハ左ノ階梯ニ從ヒ破棄セラルヘシ

條約實施以後十二ヶ月以内ニ三分ノ一

條約實施以後三ヶ年以内ニ三分ノ二」

第四目 我方修正案

我方ハ昭和八年五月二十三日「一般委員會」ニ於テ我方カ「英」案器材條項ニ關シ未タ修正案ヲ提出シ居ラサルハ決シテ同條項ニ對シ無關心ナルニ非ス充分研究ノ上何レ帝國ノ見解ヲ開陳スル處アルヘシト述ヘタルカ其ノ後昭和八年七月五日附會議書類 Conf. D/C. G./48 ヲ以テ移動砲口徑ヲ百五十五耗ニ又戰車自重ハ之ヲ二十噸ト定ムルヲ妥當ト認ムトノ趣旨ノ修正案ヲ提出シタリ

第五目 「英」案器材條項ノ討議終了ニ當リ「佛」及「波蘭」ノナシタル聲明

昭和八年五月二十三日「一般委員會」カ「英」案陸軍器材條項ノ第一讀會ヲ終了スルニ當リ「佛」及「波蘭」ハ左ノ如キ聲明ヲナシタリ

第一、「佛」聲明

一、「佛」ハ器材統一ハ人員編成統一ニ次テ行ハルヘク而シテ再軍備ヲ排シツツ漸次ニ口徑及噸數ヲ遞下シ以テ右器材ノ統一ニ達スヘキナリ

二、然レトモ右器材ノ統一ニ先チ安全保障、監督及編成樣式統一ノ三問題ノ解決ヲ必要トス從テ右三件ニ關スル解決ヲ得ハ器材問題解決ノ途ハ自ラ開カルルモノト云フヘシ

三、但シ「英」條約案中ノ口徑及噸數ニ關スル數字ハ若干獨斷的ニ定メラレタル傾アルカ故ニ「佛」ハ之ニ對シ留保ヲ付セサルヲ得ス如何トナレハ自國ノ有スルモノヲ保持シ自國ノ有セサルモノニ付テハ之ヲ他國ノ保持ヨリ奪ハントスルコトノ不當ナルハ明カナレハナリ因テ先ツ一般の原則ヲ定メ然後之ヲ具體の場合ニ適用スルヲ可トスヘシ

四、器材ニ關スル質の制限ノ主義確立セル今日之ニ關スル監督ハ常設のタルト共ニ軍縮準備委員會討議當時ニ考慮セラレタル處ノモノヨリ一層嚴重ナルモノタラサルヘカラサルハ明カナリ

五、器材ノ制限ヲナスモ兵器民營ニ對シ監督ヲ行ハサレハ右制限ハ空文トナルヲ以テ兵器ノ民營ニ對シテモ等シク常設且自動的監督ヲ行フヘシ

六、終リニ強力器材ハ之ヲ聯盟ノ使用ニ供スル爲保持スヘク之カ破棄ヲ行フカ如キハ聯盟ニ對シ不誠實ヲ行フト同時ニ相互援助組織ノ確立ヲ防クルモノナリト云フヘシ

第二、「波蘭」

右「佛」聲明ト同シ機會ニ於テ「波蘭」ハ今ヤ再軍備禁止ナル原則カ一般的ニ受諾セラレ右ニ關スル條項カ軍縮條約ニ挿入セラルヘキコト明カトナレルハ洵ニ欣快ナリ再軍備禁止ト同時ニ「波蘭」ハ兵器製造及取引問題ヲ重視スルモノナルカ故ニ「一般委員會」カ速カニ本點ニ關シ討議ヲ開始セムコトヲ望ムト述ヘタリ

第三編 海 軍 問 題